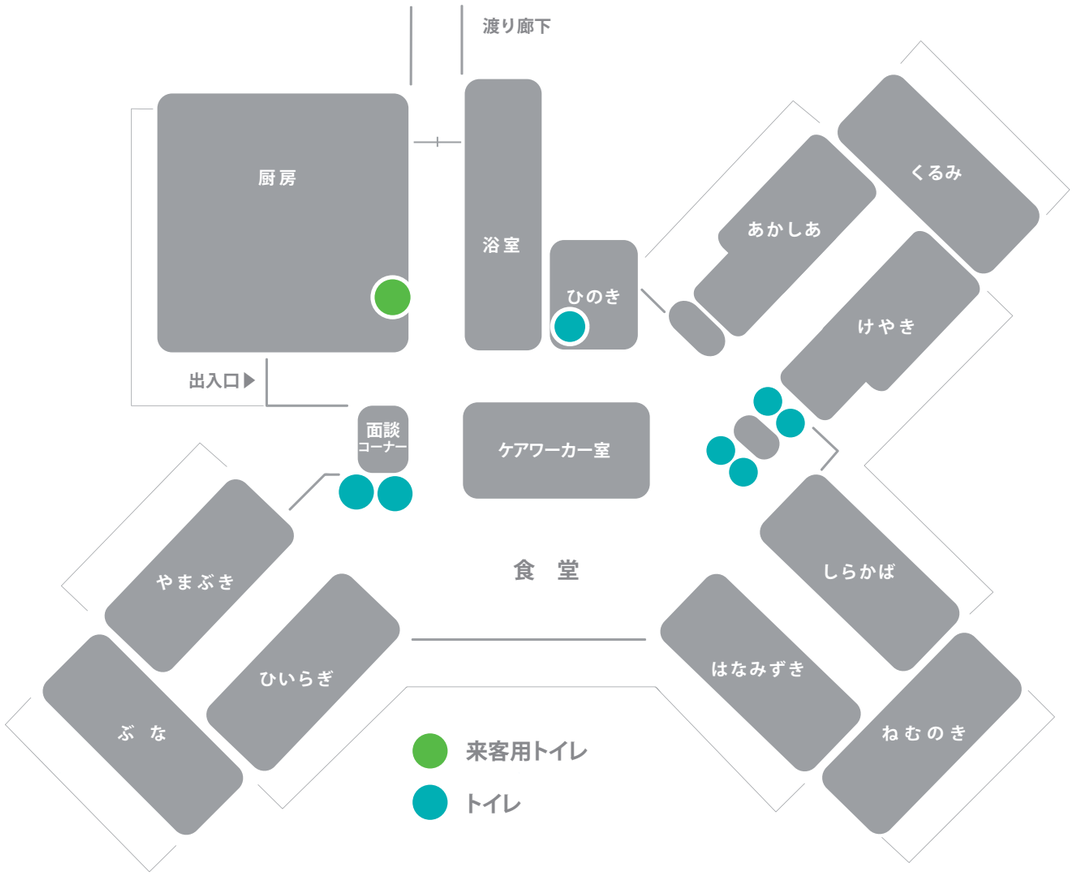
■居室案内図



■建物概要

「特別養護老人ホーム こぶし荘 増床棟」

用　　途：特別養護老人ホーム
構　　造：木造（KES 構法）
延べ面積：1,625.23 ㎡
階　　数：地上 1 階
工　　期：2018 年 7 月 1 日～ 2019 年 3 月 30 日（9 ヶ月）
定　　員：特養 30 床、ショートステイ 8 床

設 計 監 理：株式会社シェルター
主 体 工 事：三浦建設工業 株式会社
機械設備工事：弘栄設備工業株式会社
電気設備工事：東北電化工業株式会社
外 構 工 事：株式会社イトウ

社会福祉法人南陽恵和会　理事長　遠藤東一朗　|　〒999-2204　山形県南陽市川樋508番地（中川地区）

tel.0238・49・2800　|　fax.49・2802

E-mail　kobushi@bz01.plala.or.jp　|　URL　http://www.kobushiso.jp/

心豊かに、笑顔あふれる暮らしをお手伝いします

特別養護老人ホーム

こぶし荘

2019年5月　新棟オープン！

サンテラスに面した食堂

居室棟・廊下の吹抜け

食堂に隣接するケアワーカー室

４人部屋の多床室

個室仕立ての居室

浴室

ごあいさつ

高齢者福祉施設はお年寄りのためだけの施設とは思っていません。いずれ老いる若い人を含めた地域住民のための施設です。

私たちスタッフはお年寄りのお世話をすると同時にご家族の皆さんの幸せな生活と安心して暮らせる地域も考えてお世話させていただいております。そんな意識のもと、「心のやさしさと質の高い介護技術」の獲得を目指して努力しています。

ご家族、地域の皆さんも自分達の施設という意識で「こぶし荘」を育てていってください。そして、それが高齢者福祉という枠を越えて地域住民全般の福祉という大きな輪となって地域に広がることを期待しております。

ケア体制

特養は「個室ユニットケア」が主流になる中、この度の増床棟整備は、敢えて「多床室」（4 人、2 人部屋）の整備といたしました。

多床室がかかえる“プライバシーと尊厳の確保”の課題を、全居室を壁で間仕切り、個室仕立ての設計によりハード面の解消をはかりました。また、木のぬくもりを感じる広々とした空間と落ち着きのある家具を配置し、自宅をイメージしたつくりです。ケア体制は「棟毎ケア方式」により、“集団ケア”から“準個別ケア体制”の確立を目指します。

多床室は、幅広い所得階層の方に安心してご利用いただけるという大きなメリットがあります。こぶし荘が「生涯生活の場」として、地域の皆様に愛される施設となるようこれからも努力してまいります。

安心・安全

中央部にコントロールセンターとなるケアワーカーの事務スペースを配置し、３つの居住棟に目が届くように計画。入所者の方をケアしやすくなるよう配慮しました。

工法には木造（ＫＥＳ構法）を採用しています。地震に強いKES構法は、大空間を実現しつつ利用者の方々の安全を守る強い構造となっています。

各部に木構造の構造体を現し、木造らしさを表現しており、視覚的なやわらかさと、爽やかな木の香りが感じられます。視覚的な温かさを生んでいるのは、やわらかな光の反射と木目のもつ心地よさです。また、木の香りには気持ちを静め、気分を爽快にさせる効果があります。木の建物が持つ、断熱性や安らぎの効果が、快適な居住性を生み出します。

居住性への配慮

入所者の方が毎日を快適に過ごせるよう、居住性に配慮しています。

【食堂】

建物中心部にある食堂には皆が集い、会話などをしながら楽しい食事の時間を過ごします。円形リングでデザインされたペンダントライトが華やかな雰囲気を演出しています。勾配天井とすることで閉塞感のない、伸びやかな空間にしました。

【居室棟】

居住棟を３つに分散することにより、採光と風通しの良さを実現しています。居室棟では、それぞれの廊下が開放的な吹き抜け空間になっています。廊下と居室を仕切る建具を開け放てば、広場のように棟の皆が集う、コミュニケーションの場になります。